

生物多様性ひょうご戦略

平成31年2月（改定）

兵 庫 県

「生物多様性」を考える

地球は約 46 億年前に誕生しました。原始の海の中で有機物から原始生命体
ができたのは約 40 億年前と考えられています。さまざまな環境の変化が起こ
り、適応できなかつた種は絶滅する一方、新たな環境に適応して多くの種が生
まれ、現在の多様な生物とそのつながりをつくり上げてきました。

この「生物多様性」が、さまざまな恵みを通して地球上の「いのち」と私た
ちの「暮らし」を支えています。

豊かな水と肥沃な土壌に恵まれた土地では、コメをはじめとするさまざまな
農産物が生産されてきました。こうした農産物は、益虫や害虫などさまざまな
生物とのつながりの中で育ちます。クモは、農地の中で害虫を含む多くの虫を
食べることでいのちをつなぎ、農産物の生産を助けています。水田をはじめと
する農地には多様な生物がいて、私たちはその生物が関わる循環機能を利用し、
動植物を育みながら農産物を生産しています。森林はキノコや山菜、木の実
など、海や川は魚介類など、日本人の食生活を支える貴重な食料の宝庫です。

私たちは生物多様性の恵みを利用して暮らしています。私たちの生活が多く
のいのちの上に成り立っていることを自覚し、生物多様性を保全しつつ、持続
可能な利用がされるよう、日々の生活の中で配慮していくことが大切です。

生物多様性のめぐみ

■はくさい【白菜】

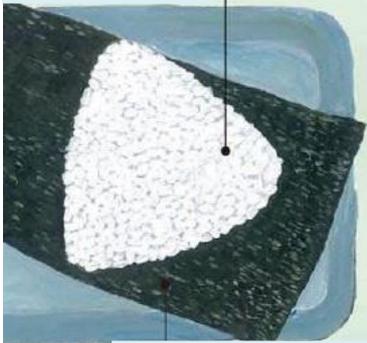
温暖な瀬戸内式気候の産地で育つ白菜は、丸々と育ち甘みがある。京阪神はもちろん、関東や中京まで広く流通している。

■しいたけ【椎茸】

主に北摂、播磨で盛んに栽培されている。春のしいたけは身が締まってうまみがあり、秋のしいたけは香りがよい。

■こめ【米】

コシヒカリ、ヒノヒカリ、キヌヒカリの三ヒカリのうるち米に加え、きぬむすめなどの食味の良い品種が栽培されている。



■のり【海苔】

「兵庫のり」は、寒風が吹く冷たい海と栄養を与える速い潮の流れの中で育つため、しっかりとした旨味が詰まり、色が黒くつやが良いのが特徴。

■ぎゅうにく【牛肉】

但馬牛は霜降り部分が細かく、あっさりしているのが特徴。但馬牛のブランドの一つである神戸ビーフは世界的にも有名。

■けいらん【鶏卵】

飼料用米の給与など、個性や特徴を活かしたブランド卵を生産。主な生産地は播磨地域。

■さかまい【酒米】

酒米の王者といわれる「山田錦」をはじめ多くの品種が生産されている。酒米出荷量は全国の3割を占める。

■しゅんぎく【春菊】

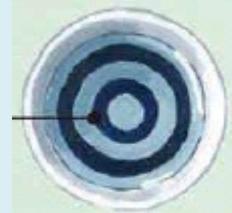
消費地に近い神戸・阪神間での生産が盛ん。

■ねぎ【葱】

特産の「岩津ねぎ」は日本三大葱の一つに数えられる。雪や霜にあたるなかで育つため大変柔らかく甘みがある。

■たまねぎ【玉葱】

温暖な瀬戸内式気候の産地で育つ「淡路島たまねぎ」は、他のたまねぎより甘く、やわらかい。



■和食とお箸

和食は日本人の伝統的な食文化としてユネスコ無形文化遺産に登録されています。

和食とは切り離せないお箸は神器として伝わたとされています。

本県では多様な気候や風土に根ざした多彩な農林水産業が営まれています

目 次

第 1 章 戦略策定にあたって

- 1 背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 2 戦略改定の趣旨と施策展開方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 3 戦略の位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- 4 戦略の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

第 2 章 生物多様性を取りまく情勢

- 1 生物多様性とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
 - (1) 遺伝子の多様性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
 - (2) 種の多様性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
 - (3) 生態系の多様性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
- 2 生物多様性がもたらすめぐみ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
- 3 生物多様性の危機・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
 - (1) 開発など人間活動による危機（第 1 の危機）・・・・・・11
 - (2) 人間活動の縮小による危機（第 2 の危機）・・・・・・12
 - (3) 人間により持ち込まれた生物による危機（第 3 の危機）・・・・13
 - (4) 地球環境の変化による危機（第 4 の危機）・・・・・・14
- 4 生物多様性の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
 - (1) 環境省レッドリストから見た生物多様性の現状・・・・・・・・15
 - (2) ひょうごの生物多様性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
- 5 生物多様性に関する国内外の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
 - (1) 世界の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
 - (2) 国の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
 - (3) 関西広域連合の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
 - (4) 県の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
 - (5) 市町の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
 - (6) 地域の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41

第 3 章 現状と課題

- 1 現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
 - (1) 侵略的な外来生物の侵入・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
 - (2) 相変わらず続く野生鳥獣被害・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
 - (3) 瀬戸内海の沿岸域環境の変化や栄養塩濃度の低下・・・・・・・・47
 - (4) 気候変動の影響増大・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
 - (5) 森林等里地・里山の多面的機能低下のおそれや開発による自然破壊・・・・ 51
 - (6) 生物多様性の保全等に関わる人材不足・・・・・・・・・・・・・・52

第 4 章 生物多様性の保全及び持続可能な利用に向けた行動計画

- 1 戦略の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
- 2 目標とする将来像・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
- 3 戦略の概念図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60
- 4 行動計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61

(1) 参画と協働による生物多様性保全活動の推進	61
① 県民の参画と普及啓発	61
② N P O等との連携、協働、活動支援	65
③ 企業のC S R活動等の推進	66
(2) 人の営みと生物多様性の調和の推進	69
① 生物多様性に配慮した農林水産業の振興	69
② 日常生活や生業に被害を及ぼす野生動物への対処と棲み分けの推進	72
③ 健康や生活に悪影響を及ぼす外来生物対策の推進	75
④ 地球温暖化の防止と適応の推進	76
(3) 生物多様性に支えられる地域の多様な自然と文化を守り育てる	
仕組みの確立	78
① 自然公園等の制度を活用した自然の保全	78
② 里地・里山や人工林の適切な管理	82
③ 自然とふれあう機会の提供	85
④ 国際的な仕組みの活用による地域保全	88
(4) 行動計画を支える基盤整備の充実	90
① 行動計画を支える仕組みの充実	90
② 生物多様性保全のための予防的措置の充実	92
③ 生物多様性を保全する人材の充実	95
(5) 愛知目標とS D G sを踏まえた取組の実践	98
① 愛知目標	98
② S D G s (持続可能な開発目標)	101
③ 県の行動計画との対応	103

第5章 戦略の効果的推進

1 各主体の役割	111
2 戦略の推進	113
(1) 外来生物対策協議会の設置	113
(2) 庁内の連携	113
(3) 市町との連携	113
(4) N P O等の民間活動団体との連携と協働	113
(5) 企業等の事業者との連携	113
(6) 大学、研究機関との連携	114
(7) 国、関西広域連合、近隣府県等との連携	114
3 行動計画の工程表・数値目標及び点検評価	114

資料編 1

1 県内の生物多様性保全・再生の取組状況	
生物多様性に配慮した事業の展開	139
(1) 各フィールドでの取組	139

(2) 各地域での特色ある取組	166
(3) 行政、大学・研究機関との連携による取組	168
2 人材育成の推進	175
(1) 環境学習や環境教育の実施	175
(2) 専門的人材の育成	179
(3) 講座・発表会等の開催	180
3 前戦略行動計画の取組状況と評価	183

資料編 2

1 用語解説	187
2 ひょうごの生物多様性保全プロジェクト	193
3 県・市町・NPOの取組	211

参考資料

資料 1 兵庫県環境審議会自然環境部会 委員名簿	239
資料 2 兵庫県環境審議会自然環境部会 審議経過	240

コラム 1 地域循環共生圏	10
コラム 2 兵庫県の自然と文化	21
コラム 3 シカの増加による森林下層植生の荒廃	29
コラム 4 日常生活での取組（エシカル消費）	56
コラム 5 ESG投資	57
コラム 6 木質バイオマスの利用促進	58
コラム 7 コウノトリの野生復帰プロジェクトとラムサール条約湿地	59
コラム 8 ヒアリ等侵略的な外来生物の侵入とバイオレジスタンス	62
コラム 9 生物多様性保全プロジェクトと生物多様性ひょうご基金	66
コラム 10 企業の生物多様性保全活動	67
コラム 11 藻場・干潟の再生	71
コラム 12 ひょうごジビエの日	73
コラム 13 餌付け禁止条例	74
コラム 14 住民参画型アライグマ排除	76
コラム 15 兵庫県の適応策の取組	77
コラム 16 ホタルの保全	82
コラム 17 ため池の「かいぼり」（池干し）と里海づくり	84
コラム 18 六甲山ビジターセンターの活用促進	86
コラム 19 生物圏保存地域	89
コラム 20 環境DNA分析手法の活用促進	90
コラム 21 「人と自然の博物館」 ジーンバンク事業	93
コラム 22 「森林動物研究センター」 ワイルドライフ・マネジメント	94